

情報化時代における大学図書館

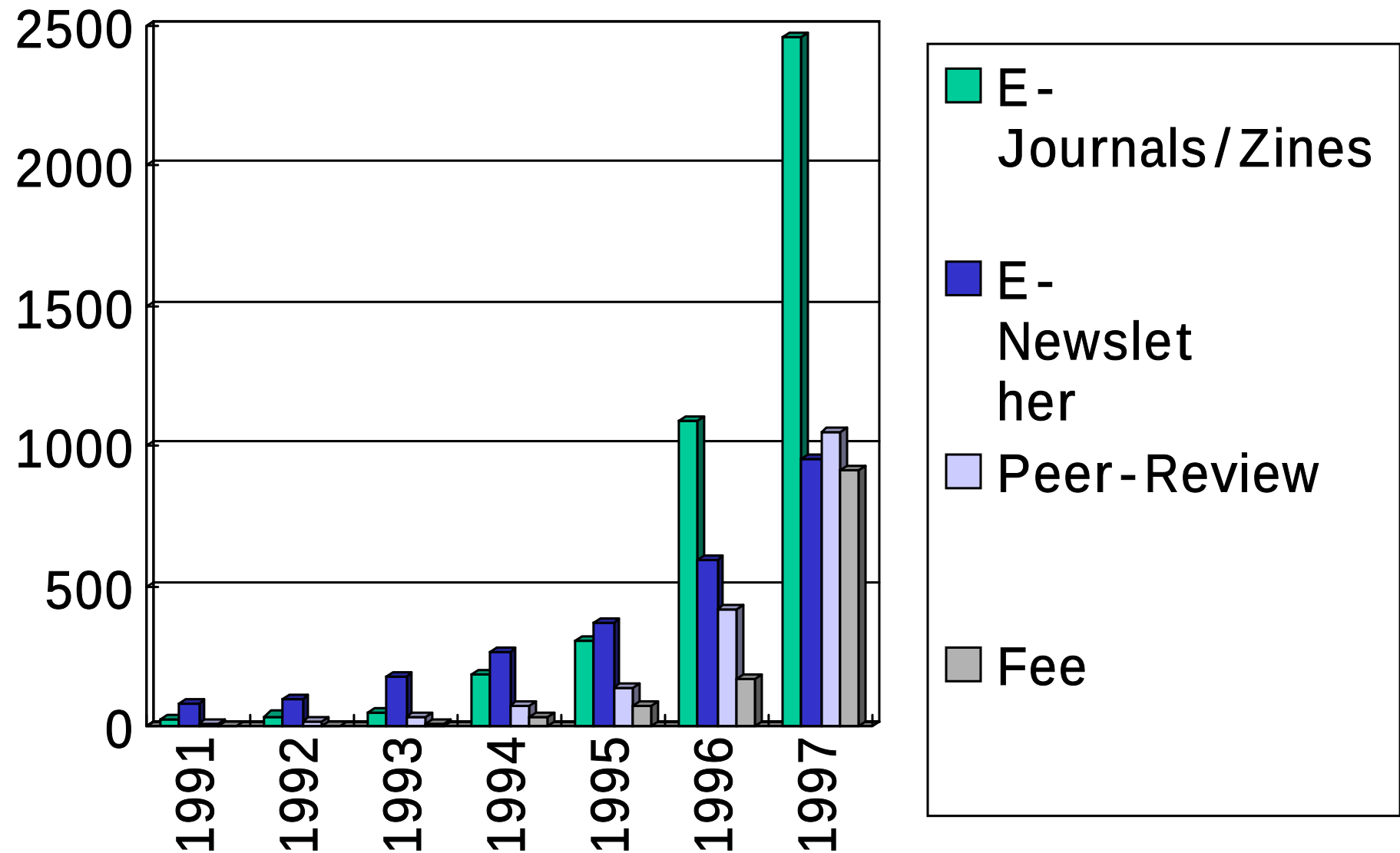
土屋俊(千葉大学)
平成11年5月25日

<http://CogSci.L.Chiba-U.ac.jp/~tutiya/Talks/99May25/>
(PowerPointファイル、草稿など)

観点と課題

- 情報化社会
 - 「インターネット爆発」以降の高度情報ネットワーク社会(媒体の均質性、ボーダーレス、自律的ネットワーク、コスト不明瞭などを特徴とする)
- 大学図書館(公共図書館、うちの書斎)
 - (高等)教育における役割
 - 学術研究(先端、非先端ともに)
 - 以上を総合して社会的位置付け
- 今の、そして今後の国立大学がどの程度まかなえるか(情報環境資源の見積り)

From ARL's Directory



21世紀の情報化社会を位置付ける

- 19世紀から20世紀前半 (資本主義、帝国主義)
 - 製造業の発達
 - 交通の発達
- 20世紀後半
 - 学術研究の高等教育への依存
 - 国家資金による研究助成制度
 - 高等教育と学術研究の分離
 - 産業における知識の価値の増大
 - 情報の産業化と社会の知識化
- 21世紀: 知識社会の時代

同時進行



知識社会における学問と教育

- 初中等教育の完全な見直し
- 高等教育の生涯学習化
- プロアマ区別のあいまい化
- 情報インフラの重要性の増大(インターネットのようなもの、インターネットですべて変化)
- 出版概念の変化(とくに学術出版)
- 情報流通チャンネルに関する不確定性
- 著作権概念の再検討

知識の共有とはなにか？

従来型図書館の一般的危機

- 従来型図書館とは？
 - 図書中心
 - 分類、配架
 - 来館、閲覧
- 近未来知識社会では使えない
 - 電子化に対応できない
 - 時間的、空間的制約を超えられない
 - 多重観点、検索重視(サーチエンジンによる分類不要論の可能性)

しかし、本質的需要は変わらない

知識の海

?

個人

インターネット社会における選書

- サーチエンジンとは何か
- ユーザ意見の吸い上げが本当に可能か
- 情報の価値とはなにか
- 経済価値はどのように計算できるか

いわゆる「電子図書館」の将来

- 利用便宜(Access)と研究保存(Preservation)
 - 学術審議会建議の(否定的)意義
 - 電子化(digitization)のパラドクス
 - 保存にはhigh resolutionが必要だが、通信はむずかしくなり、費用がかかり、さらにアクセスにとって不便となる。しかし、アクセスを容易にすると、研究には使えなくなり、おまけに表示技術が進歩すると意味がなくなる(放っておけばほぼ電子化される)
- アクセス的観点の重視の重要性
- 標準化努力の不足と国際的立ち遅れ
 - インターネットに国境がなく、日本への要求が強いことを忘れてはいけない

電子ジャーナル問題の本質

- CDROMデータベースとオンラインジャーナルの違い
 - 「購入」モデルから「ライセンス」モデルへ
 - バックイッシュー利用問題
 - アクセスログ問題
- ILLがなくなる！
- 商業出版社の決断（プライシング、コンソーシアム）
- 学術雑誌とは何だったのか
 - 学術サイドの自律・自浄機能
 - 社会の知識化のなかで

大学における情報環境資源と需要

- 「計算機」センターの遺産
 - 大型計算機センター
 - 総合情報処理センター
 - 情報処理センターその他
 - (教育用計算機センター)
- 今、学内の需要は計算する計算機にはない(理系型需要から文系型需要へ)
 - ネットワーク
 - 教育(情報処理教育からマルチメディア教育へ)
 - 電子図書館(?)
 - 管理運営、教務厚生
- しかし、資源不足は否めない

文化摩擦

(情報処理センター)

(図書館)

- 受益者負担対ユニバーサル・サービス
- 小人数対多人数
- 事務部なし対事務部あり
- 技術への信仰対技術への恐怖心・不信
- プログラム対コンテンツ、リテラシー
- データベース対オンラインジャーナル
- 教官カルチャー対事務官カルチャー
- 研究対サービス
- PCユーザを知らない対知っている

キャンパス情報基盤整備のスコープ

- 「コスト」の見積もり
 - 共有可能な資源がどのくらいあるか
 - サーバ計算機、ネットワーク、カウンター、端末
 - 共有可能な機能がどのくらいあるか
 - ユーザ管理、
- 大学全体の情報環境整備との連携
 - 学生関係(教務、厚生、メールなど)
 - 教員関係(委員会、事務連絡など)
 - 広報関係(ホームページなど)
- 事務関係巻き込み重要
 - でも、千葉の失敗の原因はこれ？

共同的努力の重要性

- 研究者コミュニティのなかで
 - 資料共有の思想、学術コミュニケーションへの自覚の喚起ジャーナル問題)
- 図書館コミュニティのなかで
 - 情報共有・システム共有・資料共有の3つのレベルでのコンソーシアム(ILLも)
- 研究者コミュニティと図書館コミュニティとのあいだで
 - 選書、ジャーナル・キャンセル、学内産出資料の標準化

諸外国では、、、

- JSTOR
- International Coalition of Library Consortia
- National Initiative for a Networked Cultural Heritage
- BL
- LC/DLF
- ARL/AAU